

# 富山市友杉遺跡・任海宮田遺跡試掘調査概要

— 県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査(4) —

1999年3月

富山市教育委員会

# 富山市友杉遺跡・任海宮田遺跡試掘調査概要

— 県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査(4) —

1999年3月

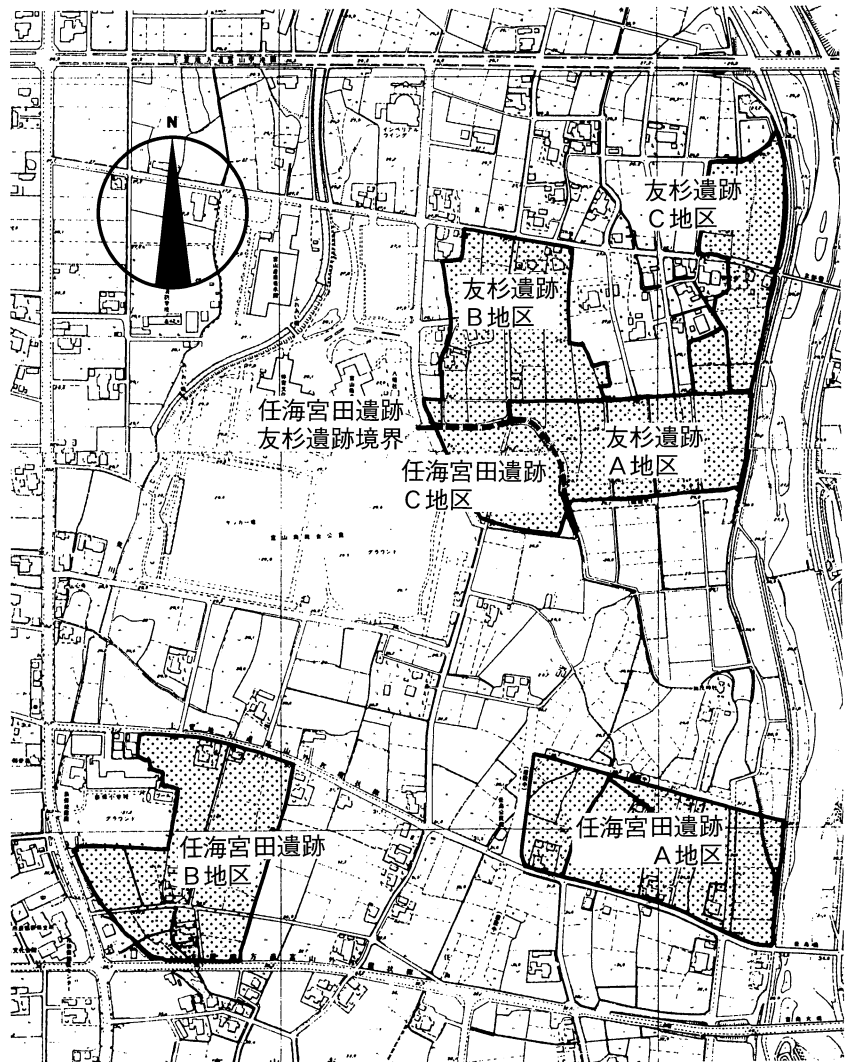
富山市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、県営公害防除特別土地改良事業神通川流域第3次地区に先立つ友杉・任海宮田遺跡試掘調査概要である。
- 2 調査は、富山県農地林務部耕地課・富山県富山農地林務事務所耕地課（農地保全班）の依頼に基づき、国庫補助金及び県費補助金の交付を受けて、富山市教育委員会が主体となって実施した。  
現地調査は、平成10年6月23日から平成10年12月25日にかけて行なった。  
遺物整理及び報告書作成は、平成10年7月1日から平成11年3月31日にかけて行なった。
- 3 調査は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員 小林高範、堀沢祐一が担当した。
- 4 調査にあたり、文化庁、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導を得た。また調査の実施にあたっては、新保地区、任海地区、新保用水土地改良区の協力を得た。
- 5 出土品整理にあたり、安達志津、上野 章、宮田進一にご教示を得た。記して謝意を表します。
- 6 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。
- 7 本書の執筆は、堀沢が行った。

## 目 次

I 位置と環境	1～2
II 調査に至る経緯	3～5
III 調査の概要	6～8
IV まとめ	8
遺構、遺物一覧表	9～13
試掘トレンチ位置	14～33
遺物実測図	34～37
写真図版	38～48
報告書抄録	49



第1図 試掘調査区域区割図 (1:10,000)

# I 位置と環境

友杉・任海宮田両遺跡は、富山市の南部の友杉・任海地内に所在している。

これらの遺跡は、東側500mのところを流れる熊野川と西側1kmの神通川によって形成された扇状地に立地し、標高は27～30mを測る。

周辺には、縄文時代から中世にかけて数多くの遺跡が点在する。

縄文時代には、大沢野段丘上に伊豆宮Ⅱ遺跡が存在する。中期後葉（串田新Ⅱ式中心）の縄文土器が検出されているが、その時期の遺構は確認されていない。栗山A遺跡・大利屋敷遺跡では、晩期の土器、それに付属する落ち込みや穴が見つかった。

古墳時代には、伊豆宮古墳が河岸段丘上に築かれた。墳丘形態は多角形墳と報告されている。埋葬施設は横穴式石室で主体部は長さ5mで奥壁の幅は1.4mである。試掘調査の際に幅2.5～3mの周溝も確認されている。また、須恵器・馬具・刀子などの鉄製品が出土している。

古代から中世にかけては、周辺に遺跡が急増する。友杉地区から南中田地区の区域である。代表的な遺跡としては吉倉B遺跡・任海鎌倉遺跡・南中田D遺跡・栗山楮原遺跡・任海砂田遺跡などがあげられる。

奈良・平安時代には、8世紀の段階で小規模な集落が出現し、9～10世紀に掘立柱建物・竪穴住居などによって構成される集落に発展する。特に任海宮田遺跡は、「城長」・「観音寺」・「壘田」・「北家」などと書かれた250点にも及ぶ墨書土器、めのう製の石帯の帯飾り等が出土しており、周辺遺跡群の中核的な集落であると想定される。

古代から中世への過渡期にあたる11世紀代に集落の存在が確認されていない空白の時期がある。

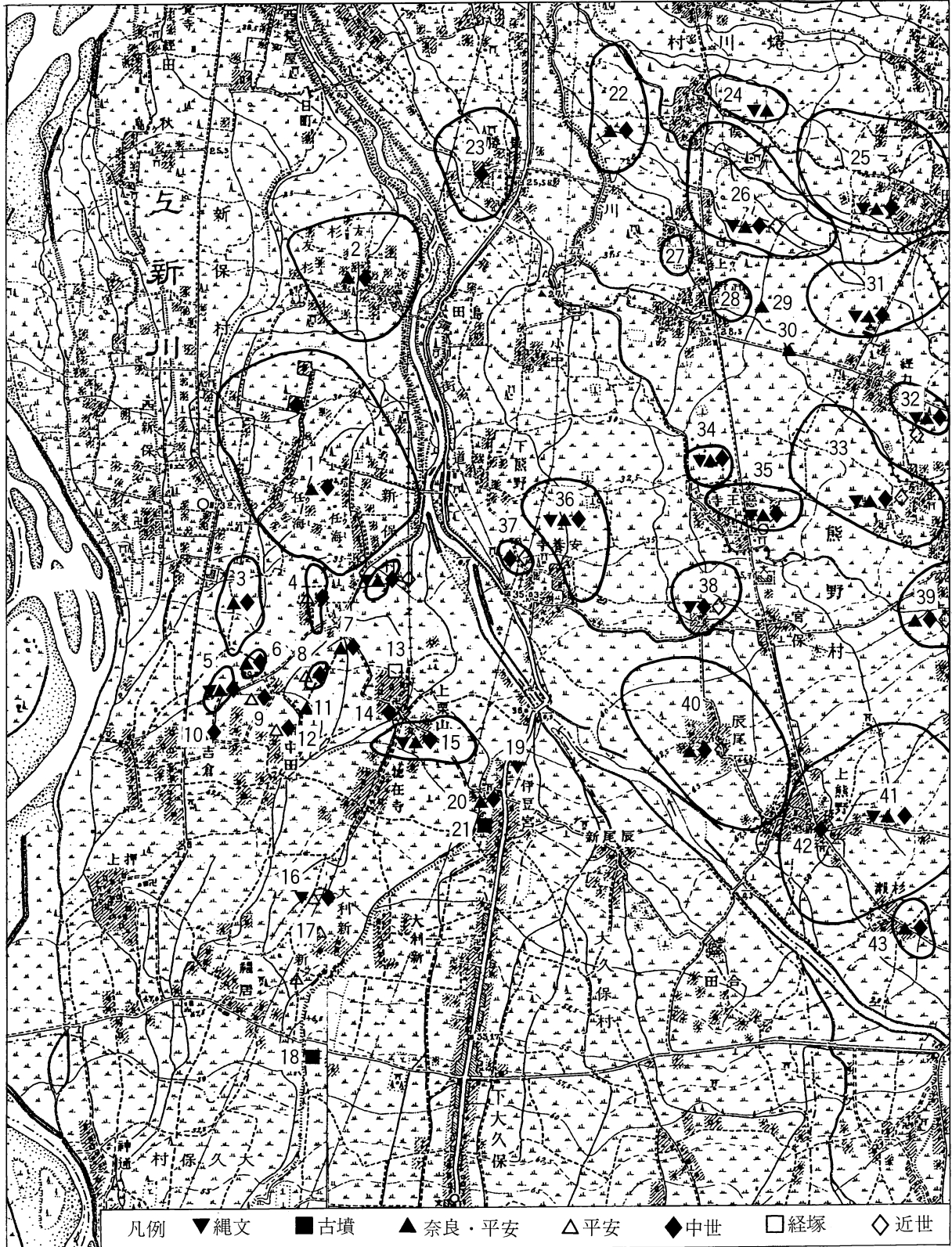
中世（12世紀）にはいると、再び集落が出現する。前記した遺跡の上層に集落が形成される例が多く、これらの集落は、13・14世紀代と存続していく。

この時期の文献資料を探ると「賀茂別雷神社文書」に寿永3年(1128)源頼朝が後白河法皇の院宣を沙汰し、そのなかに賀茂社領越中国新保御厨が含まれている。そのため、新保地区周辺が新保御厨の推定地のひとつとされる。「新保御厨」は、延徳2年(1490)まで賀茂社との関係があったと記録に残っている。

また、任海池原寺・惣在寺などが存在していたらしいが、詳細については不明である。任海池原寺跡の推定地から須恵器・珠洲焼・青磁が出土している。

江戸時代には、富山から飛騨に抜ける飛騨街道がメインルートとして熊野川沿いを南北に走っていた。その街道から現在の任海橋付近で岩木道・八尾道が分岐していった。任海橋あたりには熊野川の「徒歩渡り」があり、富山・飛騨・任海・下熊野・八尾方面からの街道が交差し、往来が頻繁に行なわれていたようである。

このように、友杉・任海宮田遺跡周辺では、大沢野段丘の縄文時代の遺跡にはじまり、古墳時代には古墳の造営が行なわれた。奈良時代から南北朝時代に一段低い扇状地に集落が営まれた。この地帯は、神通川・熊野川に挟まれ、水量も豊富で生活・交通の便もよいところと思われる。しかし、両河川の氾濫は激しく、それとの戦いを繰り返しながら人々は集落を保持していったのであろう。



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S=1:50,000)

1. 任海宮田遺跡、2. 友杉遺跡、3. 吉倉B遺跡、4. 任海遺跡、5. 南中田D遺跡、6. 任海鎌倉遺跡
7. 任海砂田遺跡、8. 栗山椿原遺跡、9. 南中田D遺跡、10. 吉倉A遺跡、11. 南中田A遺跡
12. 南中田B遺跡、13. 栗山塚、14. 惣在寺廃寺、15. 栗山A遺跡、16. 大利屋敷遺跡、17. 大利遺跡
18. 福居古墳、19. 伊豆宮Ⅱ遺跡、20. 円教寺遺跡、21. 伊豆宮古墳、22. 上野井田遺跡、23. 蜷川館跡
24. 二俣北遺跡、25. 二俣遺跡、26. 石田北遺跡、27. 上野鍋田遺跡、28. 上野亀田遺跡、29・30. 上野遺跡
31. 石田遺跡、32. 経力遺跡、33. 吉岡遺跡、34. 悪王寺遺跡、35. 若竹町遺跡、36. 下熊野遺跡
37. 安養寺遺跡、38. 宮保遺跡、39. 森田・森田瑞泉寺跡、40. 辰尾遺跡、41. 上熊野遺跡、42. 上熊野城跡
43. 杉瀬遺跡

## Ⅱ 調査に至る経緯

### 1. 調査に至るまで

県営公害特別土地改良事業は、カドミウム汚染土の復元工事である。土壤汚染対策地域は富山市・婦中町・八尾町の1市3町に広がっており、面積は1500.6haにも及ぶ。

復元事業は、対策区域を神通川上流から第1次・第2次・第3次区域の3地区に分割し、昭和55年度から実施されている。この調査は県営公害特別土地改良事業（神通川流域第3次地区）に伴うものである。工事面積は、富山市・婦中町にまたがり436.9haである。このうち富山市分は107.7haである工事は平成4年度から開始されており、平成16年度完了予定で現在進行している。

平成3年に、富山農地林務事務所から第3次事業地区内の埋蔵文化財所在状況についての照会があり、市教育委員会は、吉倉B遺跡・任海宮田遺跡・友杉遺跡の3遺跡が調査対象であるとした。対象面積は50haである。

平成4年には、秋から遺跡の所在しない区域の工事が着工され、平成8年度以降の遺跡所在区域についての調査対応・工事工法の変更などの協議が行われた。

その結果、試掘調査は富山市教育委員会が主体となって平成7年度から平成10年度にかけて4年計画で実施されることになった。

平成7年度には、平成8年度工事区域内の吉倉B遺跡の約12,000m<sup>2</sup>の調査が実施され、11,000m<sup>2</sup>に古代、中世の遺跡の所在が確認された。

平成8年度には、吉倉B遺跡、任海宮田遺跡に該当する約105,000m<sup>2</sup>を対象として実施された。平成7年度と同様に古代と中世の遺跡の所在が確認された。出土遺物は、須恵器、土師器、珠洲焼、近世陶磁器がある。なかには「北家」と書かれた墨書土器がある。

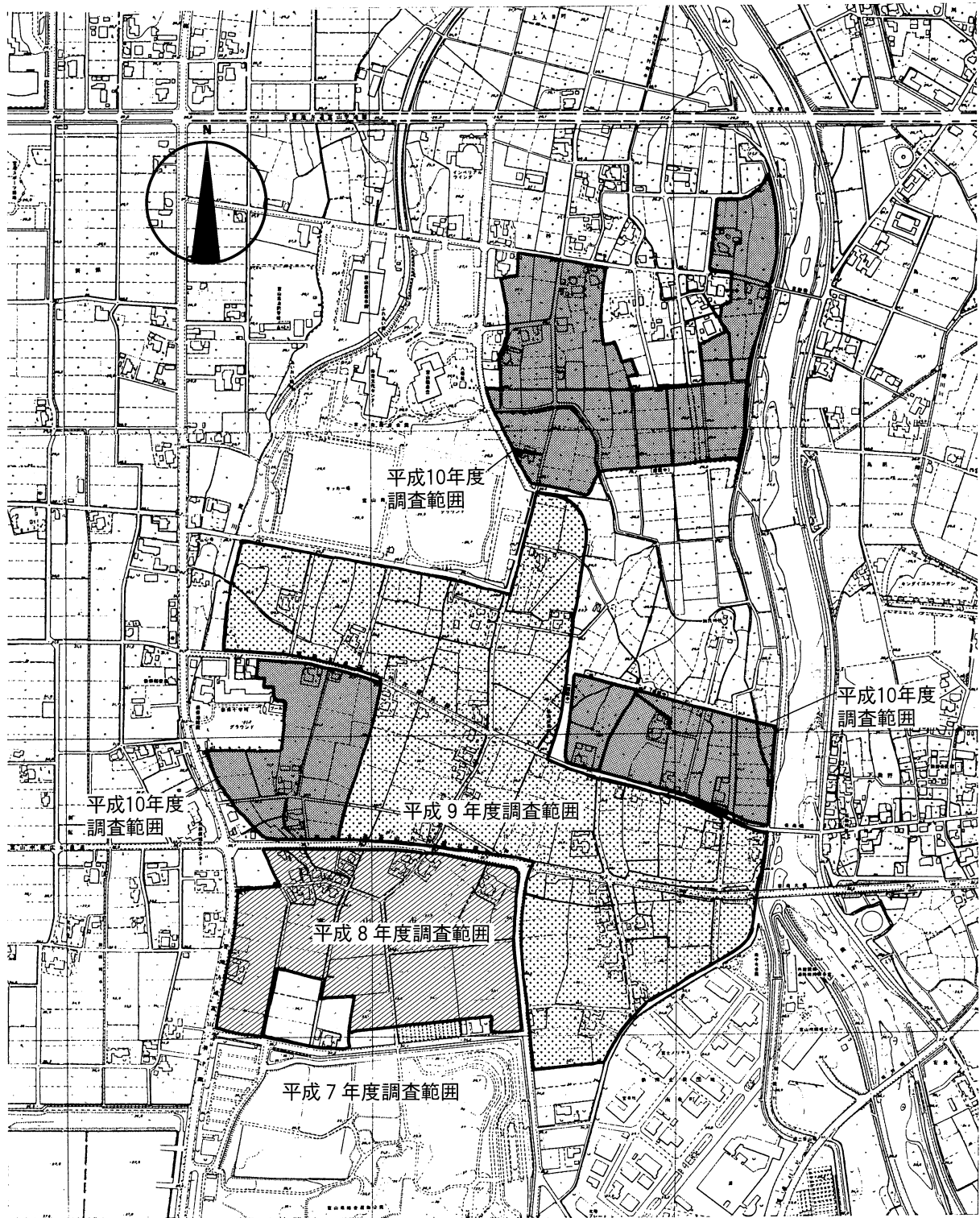
平成9年度調査対象区域は、平成8年度調査区の東側及び北側に隣接する区域約211,300m<sup>2</sup>である。この区域すべては任海宮田遺跡に該当する。平成7、8年度同様に古代と中世の遺構の所在が確認された。出土遺物は、須恵器、土師器、内黒土器、製塩土器、土錘、鉄製品、中世土師器、珠洲焼、青磁、五輪塔、砥石、近世陶磁器がある。これらの中から注目されるのは、125点にも及ぶ墨書土器のうち54点には「城長」と墨書されている。

### 2. 調査の経過

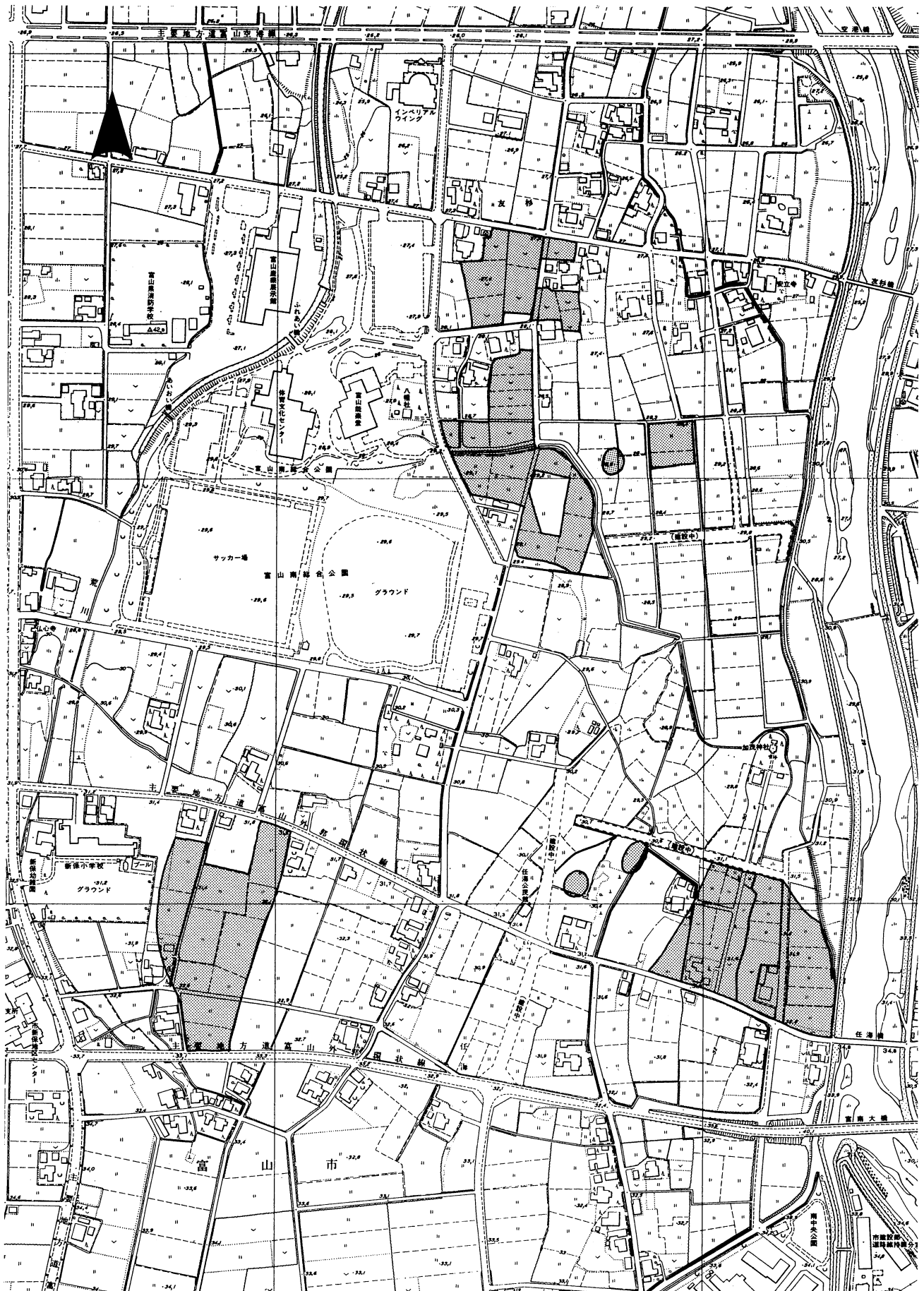
調査区は友杉遺跡と任海宮田遺跡の2遺跡にかかる。2遺跡の区切りは、便宜上第1図の点線部分の用水とした。また、調査区が広範囲にわたることとブロック状に設定されているため、各遺跡は3つに区切り、各遺跡ごとにA地区からC地区まで名称をつけた。

調査は、耕作等の関係から友杉遺跡（A地区・B地区・C地区の一部）、任海宮田遺跡（A地区・B地区・C地区）、友杉遺跡（A地区・B地区・C地区の一部）の順番で行なった。調査期間は、最初の友杉遺跡が平成10年6月23日から開始し、平成10年9月8日に終了した。任海宮田遺跡は、A地区が平成10年9月28日から開始し、平成10年11月16日に終了した。B地区は平成10年10月19日から開始し、平成10年12月11日に終了した。任海宮田遺跡C地区と友杉遺跡の各地区の一部は平成10年11月24日から開始し、平成10年12月25日に終了した。

各地区の埋戻し作業は、平成10年6月25日から開始し、平成10年12月28日に終了した。



第3図 試掘調査対象範囲 (1 : 10,000)



第4図 遺跡所在範囲 (スクリーントーンの部分)



### Ⅲ 調査の概要

#### 1. 基本層序

基本層序は、1層：水田耕作土 2層：黒褐色砂質土（古代、中世遺物包含層） 3層：黄褐色砂質土（古代、中世遺構形成面） 5層：黄褐色礫層となる。友杉遺跡、任海宮田遺跡同様である。

#### 2. 自然地形

今回の調査でも、昨年度同様に幾筋もの流路跡を確認した。流路跡は南から北方向に流れおり、基本的に遺跡は流路間の微高地に形成される。友杉遺跡では熊野川に最も近いトレンチで深い流路を確認した。1T～12T、56T～63T、135T～140Tが該当する。友杉遺跡A地区の南側では県埋文センターの調査でも流路が確認されており、一連のものと考えられる。同地区では20T、23T、24T、29T、30T、130T、132T部分でも流路跡を確認した。任海宮田遺跡では、A地区の76T、77T、92T部分、B地区の108T～115T部分、C地区の128T部分である。128Tで確認した流路は友杉遺跡の20Tへつながるものであろう。

#### 3. 遺構（第6～10図）

##### (1)友杉遺跡

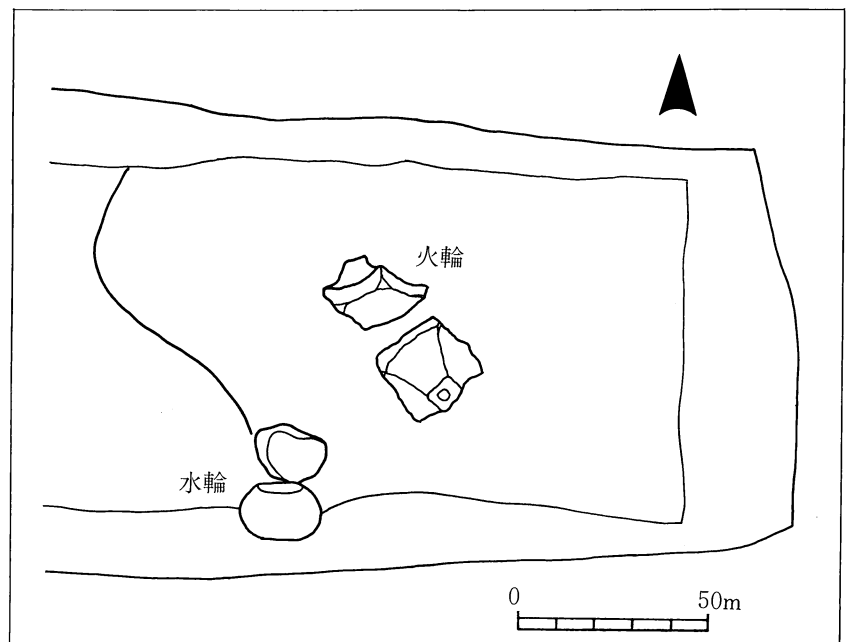
試掘トレンチは、調査区内に86本設定し、1T～73T、119T、130T～140Tが該当する。それらから、古代と中世遺構を確認した。14T、17T付近やB地区の西側に遺構が集中して見られる。

17Tでは、土壙から五輪塔の火輪と水輪が出土している（第5図）。この土壙は3層上面で確認される。44T、45Tでは遺構が集中している。45Tでは石組井戸を検出し、井戸の掘方は直径約2mである。41T付近では柱穴状のピットを検出しており、掘立柱建物の存在が窺われる。65Tでは南北に流れる溝の西肩を検出し、肩部分からは越中瀬戸焼が出土した。溝内には礫が集中している。

##### (2)任海宮田遺跡

試掘トレンチは、調査区内に54本設定した。74T～118T、120T～128Tが該当する。

それらから、古代と中世遺構を確認した。古代遺構は、竪穴住居、溝、穴などである。竪穴住居は74T、85Tで検出し、85Tでは、貼床と思われる硬化した面を確認した。74T、84T、89T～91T、98T～100T、126Tは遺構が密集している。これらのトレンチは、遺物の出土量も多い。84Tの南端では、古代遺物が集中して出土した。



第5図 17T五輪塔出土状況（1：20）

#### 4. 遺物

古代、中世、近世の遺物がコンテナ箱に20箱出土している。

##### (1)友杉遺跡(第11、12、14図・図版8、9)

古代遺物には、須恵器(蓋、杯、壺、甕)、土師器(椀、皿、甕、鍋)、内黒土器、土錘がある。土師器椀の中には、赤彩を施したものもある。中世遺物は、珠洲焼、中世土師器、古瀬戸、青磁、五輪塔がある。近世遺物は、越中瀬戸焼、唐津焼がある。中世土師器の出土が多い。

**8 T**は須恵器蓋(1)・土師器鍋(2)がある。2は口縁端部は巻き込む。9世紀後半。**9 T**は須恵器蓋(3)・土師器椀(4)・中世土師器(5~7)がある。4は内面に赤彩が施される。5と6は非ロクロ成形で15世紀代。6は口縁部に油痕付着。7はロクロ成形で12世紀後半から13世紀前半。**10 T**は越中瀬戸焼の皿(8)がある。削りだしの高台で、内面には釉止めの段がある。17世紀代。**11 T**は須恵器杯(9)がある。無台杯で8世紀後半。**15 T**は土師器甕(10)・中世土師器(11)・越中瀬戸焼の向杯(12)がある。10は長胴甕。口縁端部内側に段をもち、外側は面取りする。8世紀後半。11は非ロクロ成形で15世紀後半。12は17世紀代。**17 T**は中世土師器(13)・五輪塔(196~198)がある。196と197は火輪。198は水輪。**19 T**は中世土師器(14)がある。非ロクロ成形で13世紀代。**20 T**は越中瀬戸焼の摺り鉢(15)がある。鉄さび釉がかかる。17世紀代。**21 T**は越中瀬戸焼の皿(16)がある。底部は回転糸切の痕跡を残す。18世紀代。**25 T**は中世土師器(17)がある。非ロクロ成形で14世紀代。**27 T**は中世土師器(18)がある。非ロクロ成形で、口縁部に油痕が付着する。外面には指頭痕跡が残る。**35 T**は中世土師器(19~21)がある。すべて非ロクロ成形で、19と21は13世紀代。20は油痕が付着する。16世紀代。**37 T**は須恵器杯(22、23)がある。**39 T**は中世土師器(24~30)がある。すべて非ロクロ成形で15世紀代。**40 T**は須恵器蓋(31)・中世土師器(32)がある。**42 T**は須恵器(33、34)・土師器甕(35)・内黒土器の椀(36)がある。35は小型甕の底部。底部はへら削り。36は底部へら削り。9世紀代。**43 T**は須恵器杯(37、38)・土師器甕(39)・中世土師器(40)がある。39は長胴甕。8世紀後半。40は非ロクロ成形で15世紀代。**44 T**は須恵器杯(41)・中世土師器(42、43)・珠洲焼の甕(45)がある。41は有台杯で9世紀代。42と43は非ロクロ成形。42は15世紀後半から16世紀初。45は甕の口縁部。IV期。**45 T**は土師器甕(46)・中世土師器(47~51)・青磁(52)がある。47~51はすべて非ロクロ成形で、47は14世紀代。48は13世紀代。49~51は15世紀から16世紀代。**47 T**は須恵器甕(56)・中世土師器(57)がある。57は非ロクロ成形。12世紀後半から13世紀前半。**48 T**は古瀬戸のおろし皿(58)がある。**49 T**は須恵器杯(59~62)がある。59は8世紀代。60は9世紀後半。**51 T**は中世土師器(63)がある。ロクロ成形。12世紀後半から13世紀前半。**52 T**は中世土師器(73)・越中瀬戸焼(72、74)がある。**53 T**は中世土師器(64)がある。非ロクロ成形。14世紀代。**54 T**は須恵器杯(65、66)がある。**55 T**は須恵器(75~78)・土師器(79~85)がある。76は壺の底部。79~81は椀の口縁部。外反する。9世紀後半。82は小型甕。83~85は長胴甕。84は内面を黒色処理する。8世紀代か。その他は9世紀代。**56 T**は須恵器杯(68、69)・越中瀬戸焼の皿(70)・唐津焼の皿(71)がある。71は17世紀代。**59 T**は越中瀬戸焼の摺り鉢(86)がある。17世紀代。**64 T**は土錘(88)と中世土師器(87)がある。88は細型のもの。孔径は1cm。**65 T**は越中瀬戸焼の皿(89)がある。**68 T**土師器甕(90)青磁(92)がある。90は9世紀中頃。92は龍泉窯のもの。**70 T**は須恵器蓋(93、94)がある。8世紀後半。**138 T**は珠洲焼の甕(95)がある。

## (2)任海宮田遺跡 (第12～14図・図版9、10、11)

古代遺物は、須恵器(蓋、杯、壺、甕、双耳瓶)、土師器(椀、皿、甕、鍋)、内黒土器、墨書土器、土錘、鉄製品、鉄滓、羽口が出土している。中世遺物は珠洲焼、中世土師器が出土している。砥石もある。古代遺物が圧倒的に出土量が多い。

74 Tは須恵器(96～103)・土師器(104～106)がある。96～98は蓋。99～103は杯で、100は無台杯。101～103は有台杯。103は墨書土器で、底部外面に墨書がある。墨書内容は「縄」と考えられる。(本遺跡からは、土師器側面外面に「縄」と書かれた墨書土器が1点出土している。) 9世紀代。105は小型甕の底部。回転糸切の痕跡を残す。106は鍋。9世紀後半から10世紀前半。75 Tは須恵器杯(113、114)がある。76 Tは須恵器(115～117、122)・土師器(118～120)・中世土師器(121)がある。116は広口壺。117は双耳瓶の底部か。119は皿の口縁部。9世紀後半から10世紀初め。121は非ロク口成形で14～15世紀代。77 Tは須恵器杯(108)・土師器甕(107)がある。78 Tは須恵器(109～111)・土師器甕(112)がある。112は長胴甕。口縁端部は折り返す。9世紀後半。82 Tは越中瀬戸焼の摺り鉢(123)がある。19世紀代。83 Tは土師器椀(159)がある。底部回転糸切。84 Tは須恵器(124～128)・土師器(129～131)・中世土師器(132)がある。128は双耳瓶の把手。85 Tは須恵器(134～145)・土師器(146～150)・鉄製品(151)がある。134、135は蓋。134はつまみが付く。136～140は無台杯。8世紀後半から9世紀代。136は底部回転糸切。141、142は有台杯。142の口縁端部は外反する。143は壺の底部。149、150は長胴甕。151は釘か。86 Tは須恵器(152～154、160)・土師器甕(155)がある。152は底部回転糸切。155は長胴甕。8世紀後半。88 Tは須恵器蓋(156、157)・土師器(158)がある。156はつまみが付く。158は柱状高台。底部回転糸切。12世紀後半。89 Tは須恵器(161～163、167)・土師器(164、165)・中世土師器(166)がある。161は蓋。内面に墨痕があり、転用硯と考えられる。90 Tは須恵器(168～170)・土師器(171、172)がある。168は蓋。頂部は回転糸切で、つまみはなし。9世紀後半から10世紀代。171と172は長胴甕の口縁部。91 Tは須恵器杯(173)・土師器皿(174)・土錘(175)がある。92 Tは中世土師器(176)がある。94 Tは砥石(195)がある。96 Tは須恵器蓋(177)がある。9世紀後半。98 Tは土師器椀(178)がある。99 Tは須恵器(179、181、182)・土師器椀(180)がある。100 Tは須恵器(183、184)がある。103 Tは須恵器甕(185)がある。104 Tは珠洲焼甕(186)がある。120 Tは須恵器杯(187、188)がある。122 Tは須恵器甕(189)がある。125 Tは須恵器杯(190)がある。129 Tは須恵器(191、192)・土師器甕(193)・中世土師器(194)がある。

## Ⅳ ま と め

今回の調査では、友杉遺跡、任海宮田遺跡ともに古代と中世の遺跡を確認した。(遺跡所在面積は、友杉遺跡が21,970㎡、任海宮田遺跡が60,000㎡で合わせて81,970㎡になる。)

古代は、両遺跡とも、8世紀後半、9世紀、10世紀前半の遺物が出土しており、この時期に集落が形成されたものと考えられる。周辺での調査事例と符合する。友杉遺跡では古代遺物の出土量は任海宮田遺跡に比べやや少ない傾向にある。任海宮田遺跡では、101 Tと129 Tで羽口や鉄滓(羽口4点。鉄滓はコンテナ箱3分の1程度)が出土しており、遺構は確認できなかったが、付近に鍛冶に関係した施設の存在を窺わせる。

中世は、友杉遺跡では12世紀後半から16世紀前半の遺物が出土しており、この時期に集落が形成されたものと考えられる。同遺跡は任海宮田遺跡に比べ中世土師器の出土量が多い。任海宮田遺跡では13世紀から15世紀の遺物が出土しており、この時期の集落形成が考えられるが、遺物量は古代に比べ格段に少ない。

このように、友杉遺跡は古代よりも中世をやや主体にした集落で、任海宮田遺跡は中世の時期が薄く、古代を主体とした集落と想定できる。

	検出遺構	出土遺物
1 T		須恵器（杯）・珠洲焼（甕）・近世
2 T		須恵器（杯）・土師器・近世
3 T		須恵器（甕）・土師器（碗・甕）・近世
4 T		須恵器
5 T		須恵器（甕）
6 T		
7 T		須恵器（蓋）・土師器（碗・甕）・近世
8 T		須恵器（蓋・甕）・土師器（碗・甕）
9 T		須恵器（蓋）・土師器（碗）・中世土師器・近世
10 T		土師器（甕）・近世
11 T		須恵器（杯）・近世
12 T		土師器（碗）・近世
13 T	溝	須恵器（蓋）・土師器・近世
14 T	穴	土師器（甕）・中世土師器
15 T		須恵器（甕）・土師器（甕・皿）・珠洲焼（甕）・中世土師器 近世
16 T		土師器（甕）・中世土師器
17 T	穴	土師器（碗・甕）・珠洲焼・中世土師器・五輪塔・近世
18 T		珠洲焼（甕）
19 T		中世土師器・近世
20 T		土師器（甕）・近世
21 T		土師器・珠洲焼（摺り鉢）・中世土師器
22 T		土師器（甕）・中世土師器
23 T		須恵器（杯）・土師器（碗）・珠洲焼（甕）
24 T		土師器
25 T		須恵器（杯）・中世土師器・近世
26 T	溝・穴	須恵器（杯）・土師器・近世
27 T	穴	須恵器（甕）・土師器（甕）・珠洲焼（摺り鉢）・中世土師器 青磁
28 T	溝	須恵器（甕）・土師器（甕）・中世土師器
29 T		須恵器（甕）・土師器（甕）
30 T		

表1 遺構・遺物一覧表（友杉遺跡）

	検出遺構	出土遺物
31 T	溝	土師器（甕）・中世土師器・近世（摺り鉢）
32 T	穴	須恵器（杯）・土師器・珠洲焼（甕）・中世土師器
33 T	溝	土師器（甕）
34 T		土師器（甕）・近世
35 T	溝	土師器・中世土師器・近世
36 T	溝	須恵器（杯）・土師器（甕）・中世土師器
37 T	穴	須恵器（杯）・土師器（碗・甕）・中世土師器・近世
38 T	溝・穴	須恵器・土師器（器種不明）・近世
39 T	溝・穴	須恵器（壺）・土師器（甕）・中世土師器・近世
40 T	溝・穴	須恵器（蓋）・土師器（甕）・珠洲焼（甕）・中世土師器 近世
41 T	溝・穴	須恵器（杯）・土師器（甕）・近世
42 T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（甕）・内黒土器
43 T	穴	須恵器（杯）・土師器（碗・甕）・珠洲焼（甕）・中世土師器
44 T	溝・穴（遺構密）	須恵器（杯・甕）・土師器（碗）・珠洲焼（甕・摺り鉢） 中世土師器・近世
45 T	石組井戸、穴	須恵器（甕）・土師器（碗・甕）・中世土師器・青磁・近世・ 鉄製品・骨
46 T	溝・穴（遺構密）	須恵器（蓋）・珠洲焼（摺り鉢）・中世土師器・近世・炭
47 T	溝・穴	須恵器（甕）・土師器（碗・甕）・中世土師器・近世・砥石
48 T	溝・穴	須恵器（蓋・甕）・土師器（甕）・珠洲焼（甕）・中世土師器 近世
49 T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（甕）・中世土師器・近世
50 T	溝	須恵器（壺）・土師器（碗・甕）・中世土師器・近世
51 T	溝・穴	土師器（甕）・中世土師器・近世
52 T	溝	須恵器（甕・壺）・土師器（甕）・中世土師器・近世
53 T	溝	須恵器（杯）・土師器（甕）・中世土師器
54 T	溝・穴	須恵器（杯・甕・壺）・土師器（碗・甕）・珠洲焼（甕）・ 中世土師器・近世・炭
55 T	溝	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（碗・甕・赤彩）・中世土師器 近世・炭
56 T		須恵器（甕）・珠洲焼（甕）・中世土師器・近世
57 T		土師器・近世
58 T		珠洲焼・近世

表2 遺構・遺物一覧表（友杉遺跡）

	検出遺構	出土遺物
59T		
60T		
61T		
62T		須恵器（杯）・土師器（碗）・中世土師器・近世
63T		
64T	溝・穴	須恵器（杯）・土師器（甕）・中世土師器・土錘・近世
65T	溝・穴	須恵器（蓋）・土師器・珠洲焼（甕）・中世土師器・近世
66T	溝	須恵器（杯・甕）・土師器（甕）・中世土師器・近世
67T	穴	須恵器（杯）・土師器（甕）・珠洲焼（摺り鉢）
68T	穴	須恵器（蓋・甕）・土師器（碗・甕）・珠洲焼（摺り鉢）・青磁・中世土師器・近世
69T		須恵器（杯）・土師器（甕）・珠洲焼（摺り鉢）
70T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（碗・甕）・近世
71T		
72T		近世
73T		
74T	竪穴住居・溝・穴 （遺構密）	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（碗・甕）・内黒土器
75T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（碗・甕）・近世
76T		須恵器（杯・甕・壺）・土師器（碗・皿・甕）・中世土師器
77T		須恵器（杯・甕）・土師器（碗・甕）・土錘
78T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（甕）・近世
79T	溝・穴	須恵器（甕）・土師器（甕・鍋）・中世土師器
80T		土師器（碗・甕）・中世土師器・近世
81T		須恵器（杯・甕）・土師器（甕）
82T		須恵器・土師器（碗・甕）・近世
83T	溝・穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（甕）・中世土師器
84T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・碗・甕・双耳瓶）・土師器（碗・皿・甕） 内黒土器（碗）・中世土師器・近世
85T	竪穴住居・穴	須恵器（蓋・杯・甕・壺）・土師器（碗・甕）・鉄滓・鉄製品 炭

表3 遺構・遺物一覧表（59T～73Tは友杉遺跡・74T～85Tは任海宮田遺跡）

	検出遺構	出土遺物
86T	掘立柱建物・穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（甕）・珠洲焼・炭
87T	穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（甕）・中世土師器・近世
88T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（碗・甕）・近世・炭 甕に炭化物付着
89T	溝・穴（遺構密）	須恵器（杯・甕）・土師器（碗・甕）・中世土師器・鉄滓
90T	溝・穴（遺構密）	須恵器（蓋・杯・甕・壺）・土師器（碗・甕・鍋）・内黒土器 近世
91T	溝・穴（遺構密）	須恵器（杯・甕）・土師器（碗・甕）・土錘
92T		須恵器（杯・甕・壺）・土師器（甕）・中世土師器・近世
93T		須恵器（杯）・土師器（碗）
94T	穴	土師器・砥石
95T	溝・穴	土師器・内黒土器（碗）・中世土師器・鉄滓
96T		須恵器（蓋）・土師器（碗）・近世
97T		
98T	溝・穴（遺構密）	須恵器（杯）・土師器（碗・甕）・珠洲焼（甕） 中世土師器
99T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・甕・壺）・土師器（碗・甕）・珠洲焼（甕・ 片口鉢）・中世土師器
100T	溝・穴（遺構密）	須恵器（蓋・杯）・土師器（蓋・碗）・内黒土器 珠洲焼（甕）・中世土師器
101T		越中瀬戸焼・羽口・鉄滓
102T		中世土師器
103T	溝	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（甕）
104T	穴	珠洲焼（甕）
105T	穴	土師器
106T	穴	近世
107T		須恵器（蓋・杯）・土師器（碗）
108T		土師器（甕）
109T		珠洲焼（甕）・近世
110T		
111T		土師器（甕）・近世
112T		
113T		

表4 遺構・遺物一覧表（任海宮田遺跡）


	検出遺構	出土遺物
114 T		
115 T		
116 T	溝・穴	土師器
117 T	穴	土師器（甕）
118 T	溝	中世土師器
119 T	穴	土師器（甕）
120 T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器（甕）
121 T		須恵器（杯）・土師器・珠洲焼・近世
122 T	溝・穴	須恵器（甕）・土師器
123 T	溝	土師器・近世
124 T	穴	土師器
125 T		須恵器（蓋・杯）・土師器・近世
126 T	溝・穴（遺構密）	須恵器（杯・甕）・土師器（皿・椀）
127 T	穴	土師器・近世
128 T		須恵器（杯）・近世
129 T	溝	須恵器（蓋・杯・甕・壺）・土師器（甕）・中世土師器・近世 鉄滓・鉄製品・羽口
130 T		
131 T		須恵器（甕）・土師器（椀）・近世
132 T		珠洲焼（片口針）
133 T		須恵器（杯・甕）・土師器・近世
134 T		
135 T		近世
136 T		須恵器（甕）・近世
137 T		近世
138 T		須恵器・土師器・珠洲焼（甕）・近世
139 T		近世
140 T		

表5 遺構・遺物一覧表（114 T～118 T、120 T～129 T任海宮田遺跡、119 T、130 T～140 T友杉遺跡）





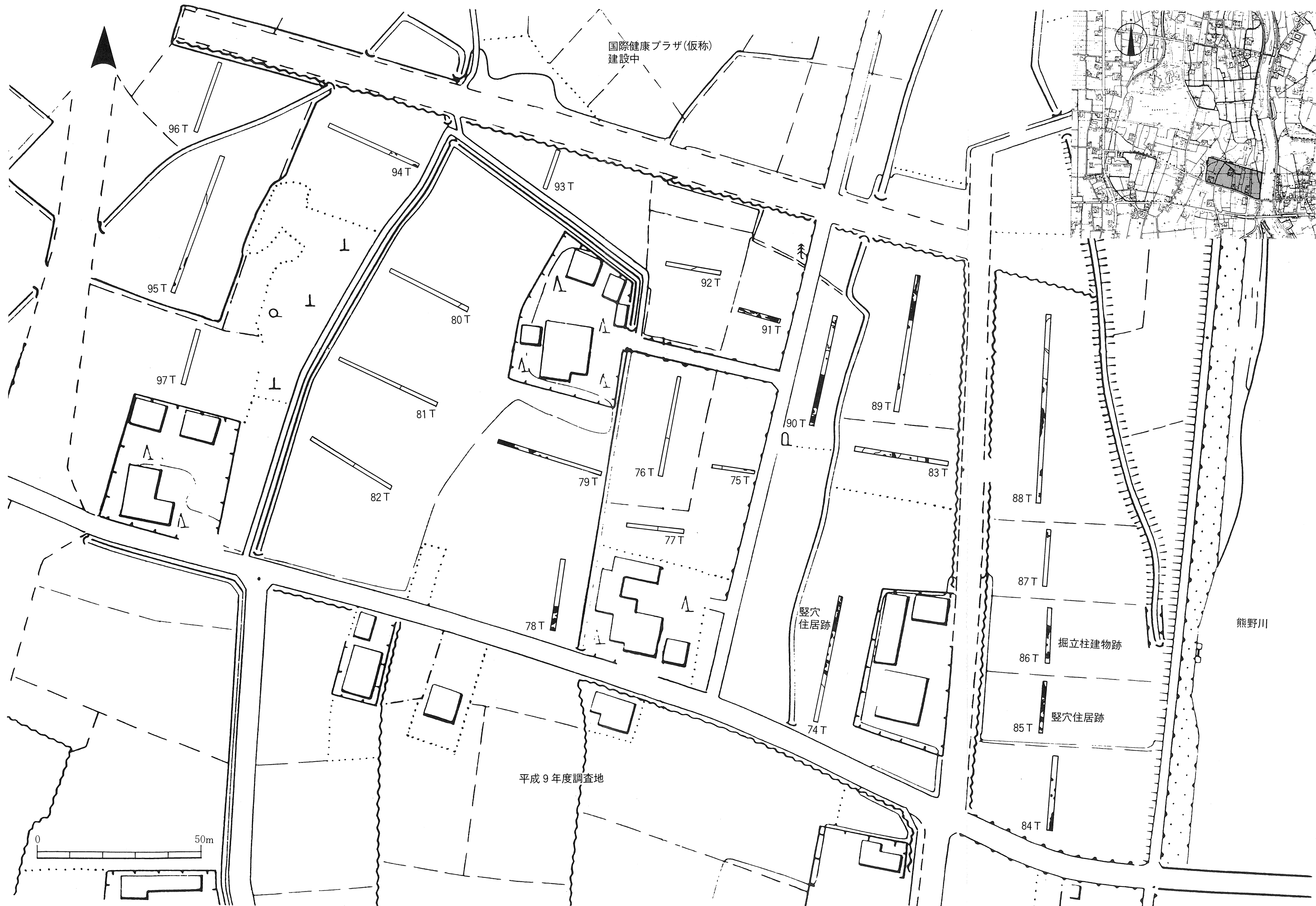
第6図 友杉遺跡(A地区) 任海宮田遺跡(C地区) 試掘調査トレンチ位置図 (1:1,000)



第7図 友杉遺跡 (B地区) 試掘トレンチ位置図 (1:1,000)



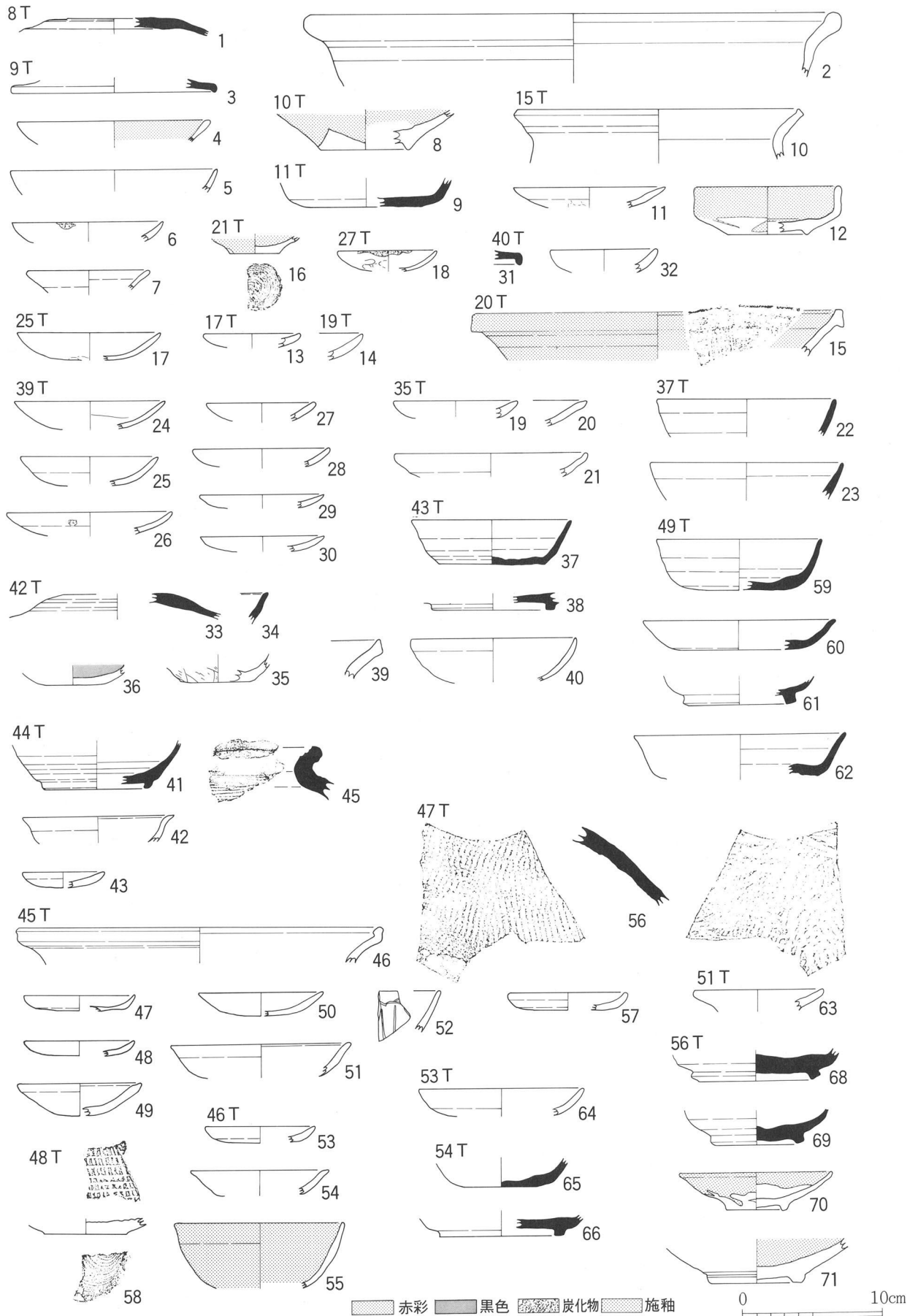
第8図 友杉遺跡 (C地区) 試掘調査トレンチ位置図 (1:1,000)



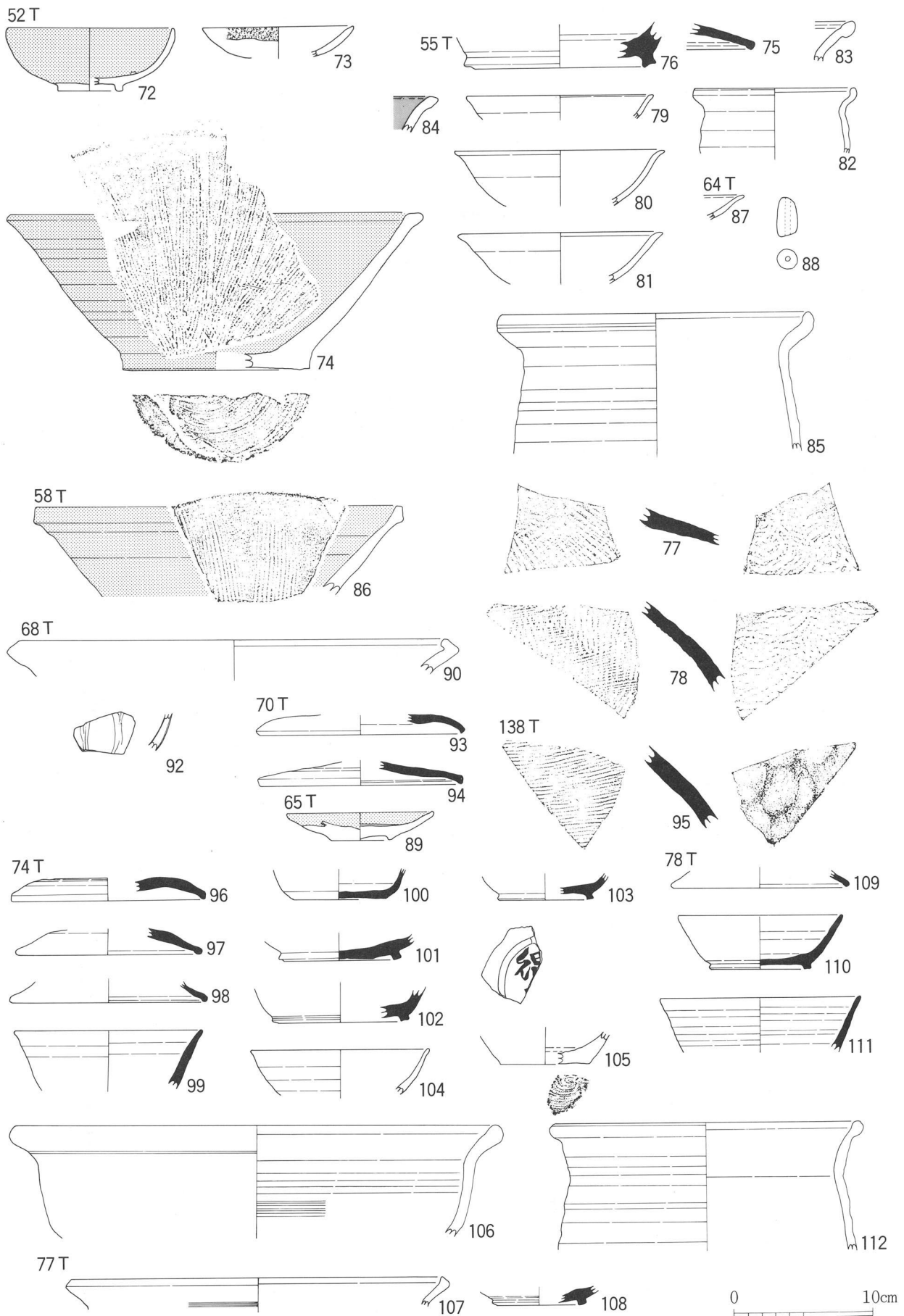
第9図 任海宮田遺跡 (A地区) 試掘調査トレンチ位置図 (1 : 1,000)



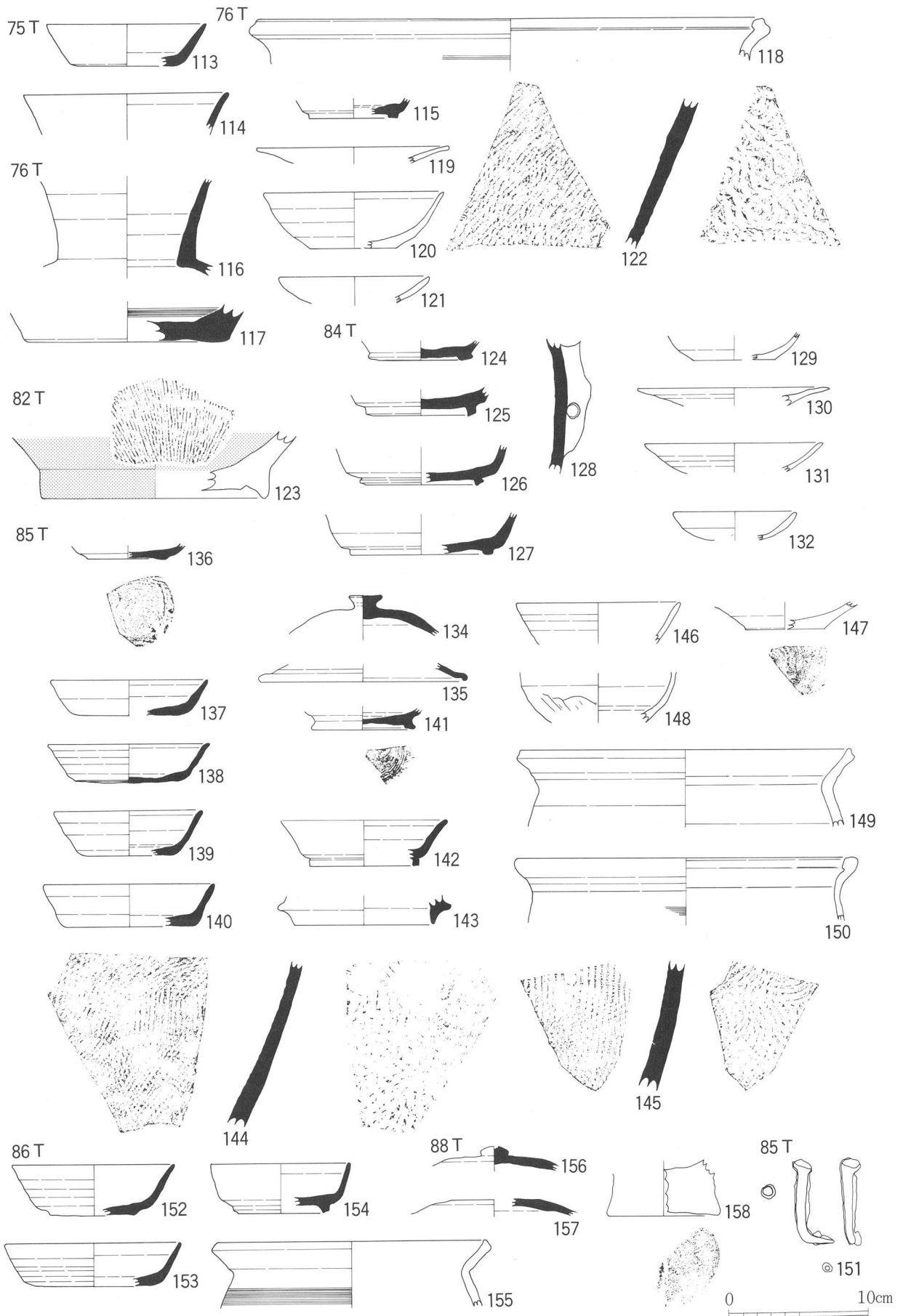
第10図 任海宮田遺跡 (B地区) 試掘調査トレンチ位置図 (1 : 1,000)



第11図 友杉遺跡遺物実測図 (1:4)

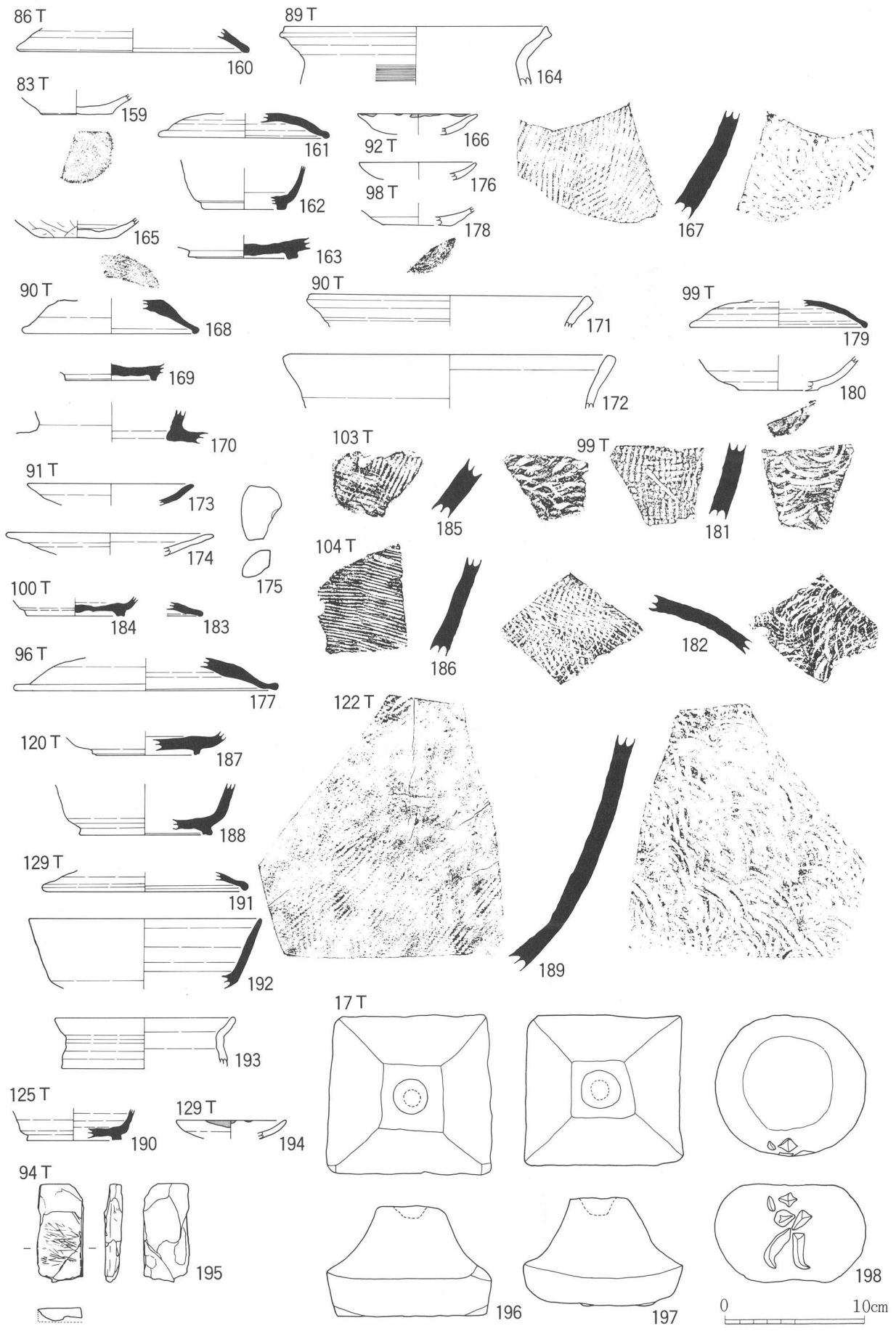


第12図 友杉遺跡・任海宮田遺跡遺物実測図 (1:4)

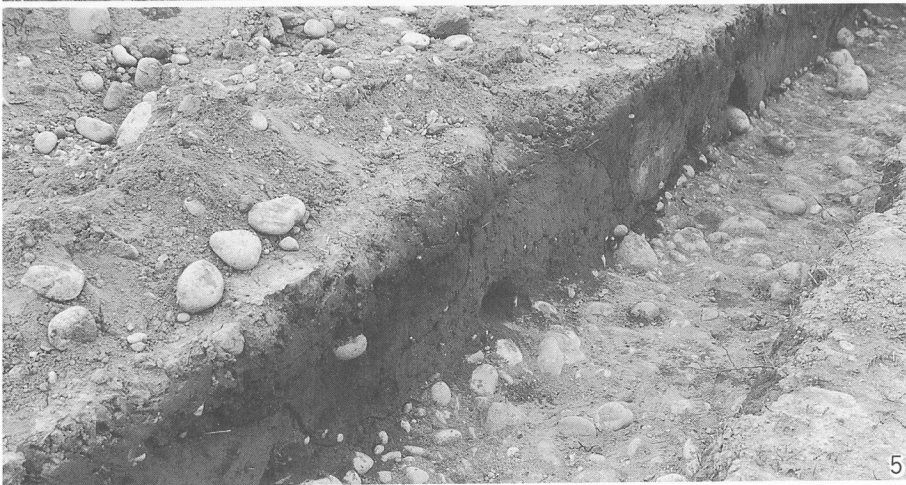


第13図 任海宮田遺跡遺物実測図 (1:4)





第14図 任海宮田遺跡・友杉遺跡遺物実測図 (1 : 4)



1. 17T五輪塔出土状況 (西から)
2. 17T五輪塔出土状況 (東から)
3. 40T (西から)
4. 38T (西から)
5. 27T土層 (南から)

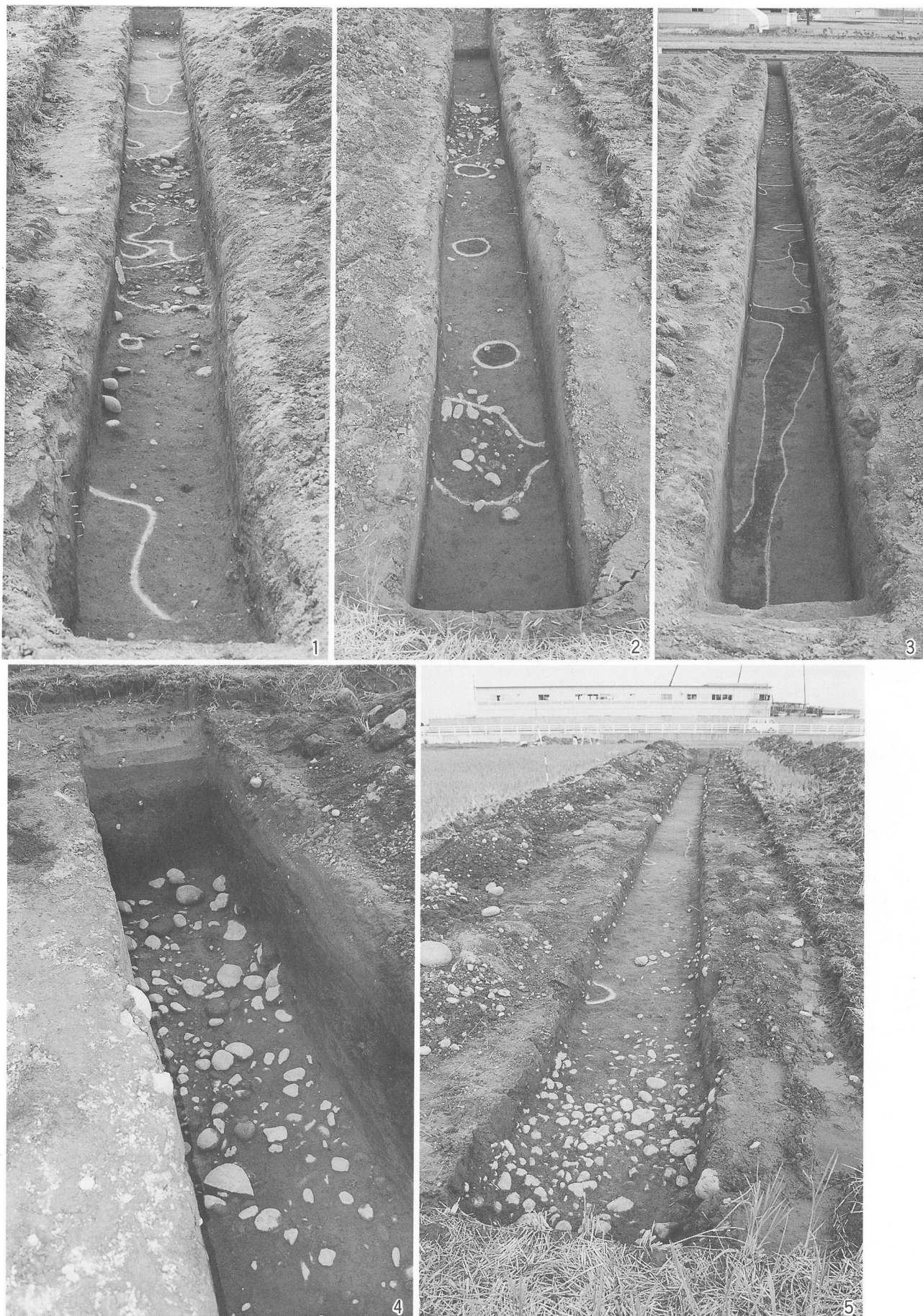


1. 45 T (南から) 2. 45 T 石組井戸出土状況 (東から) 3. 51 T (東から) 4. 64 T 土層 (西から)  
5. 65 T 遺物出土状況 (北から)

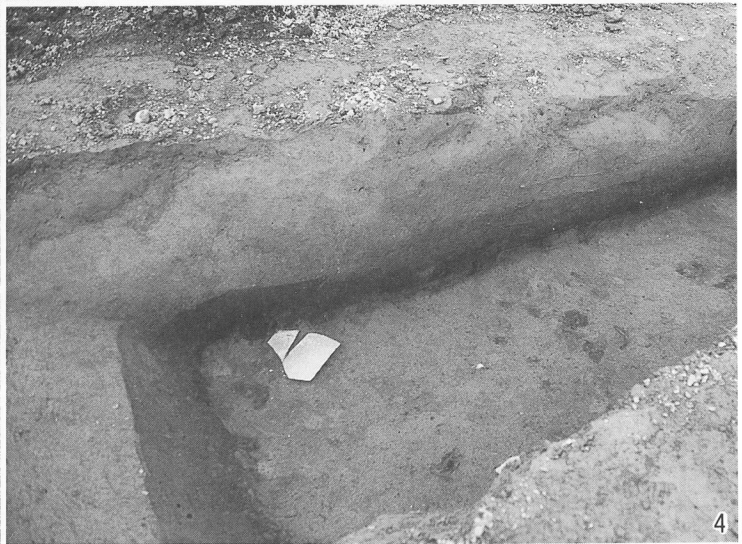


1. 74T (北から) 2. 74T土層 (西から)  
3. 91T (東から) 4. 78T土層 (西から)  
5. 90T (南から)

写真図版4 (任海宮田遺跡)

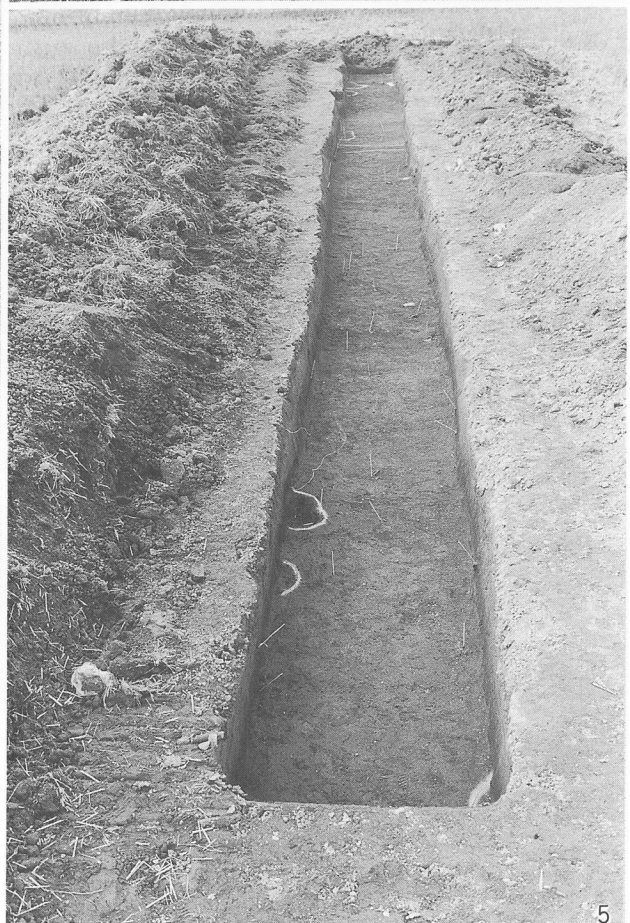
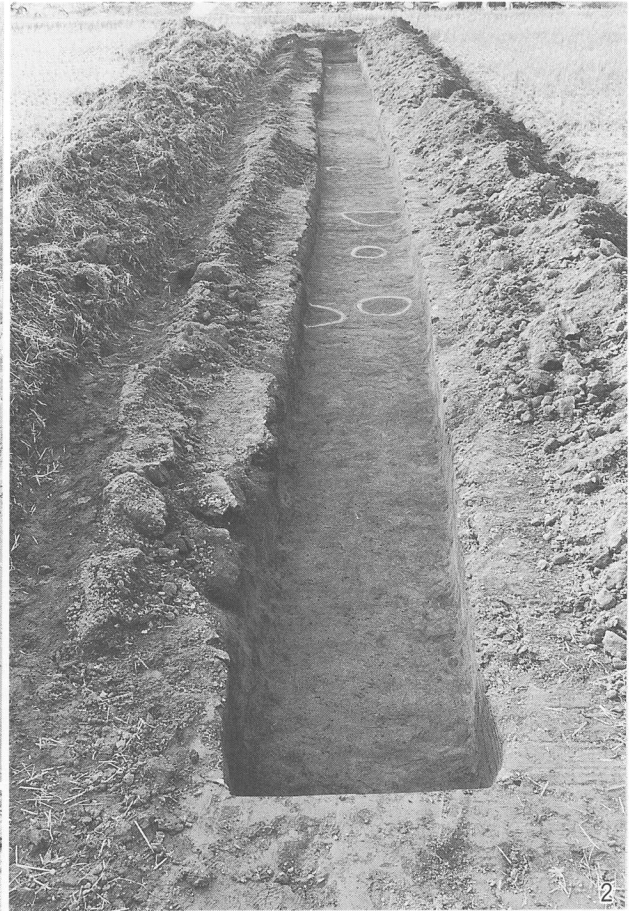


1. 85 T (北から) 2. 86 T 掘立柱建物検出状況 (南から) 3. 89 T (北から)  
4. 84 T 遺物出土状況 (北から) 5. 95 T (南から)



1. 126 T (北から)  
2. 126 T 遺物出土状況 (南から)  
3. 123 T (北から) 4. 122 T 土層 (北から)  
5. 129 T (北から)





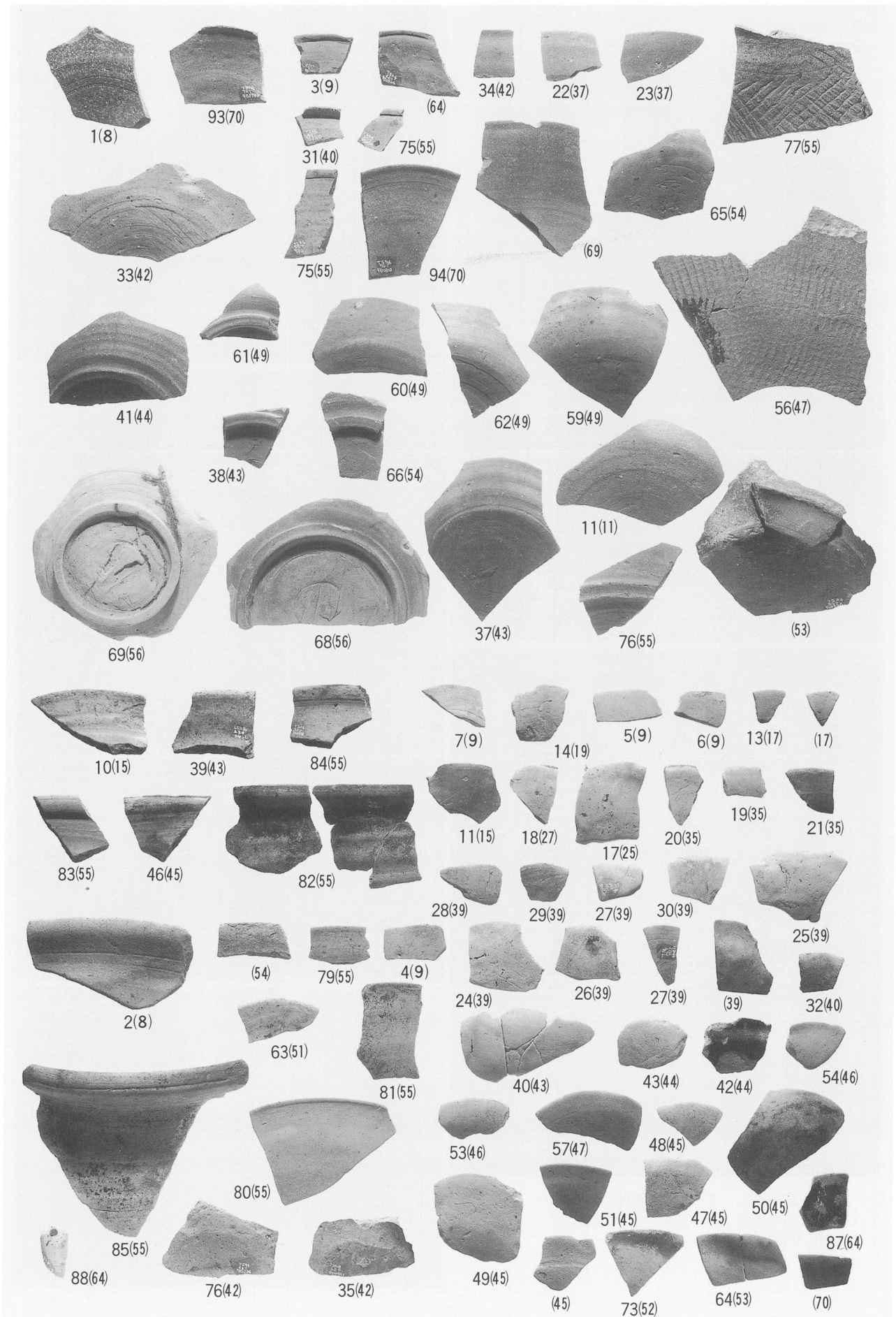
1. 試掘調査状況(東から)  
2. 98 T(東から) 3. 98 T遺構(東から)  
4. 98 T土層(南から) 5. 99 T(東から)



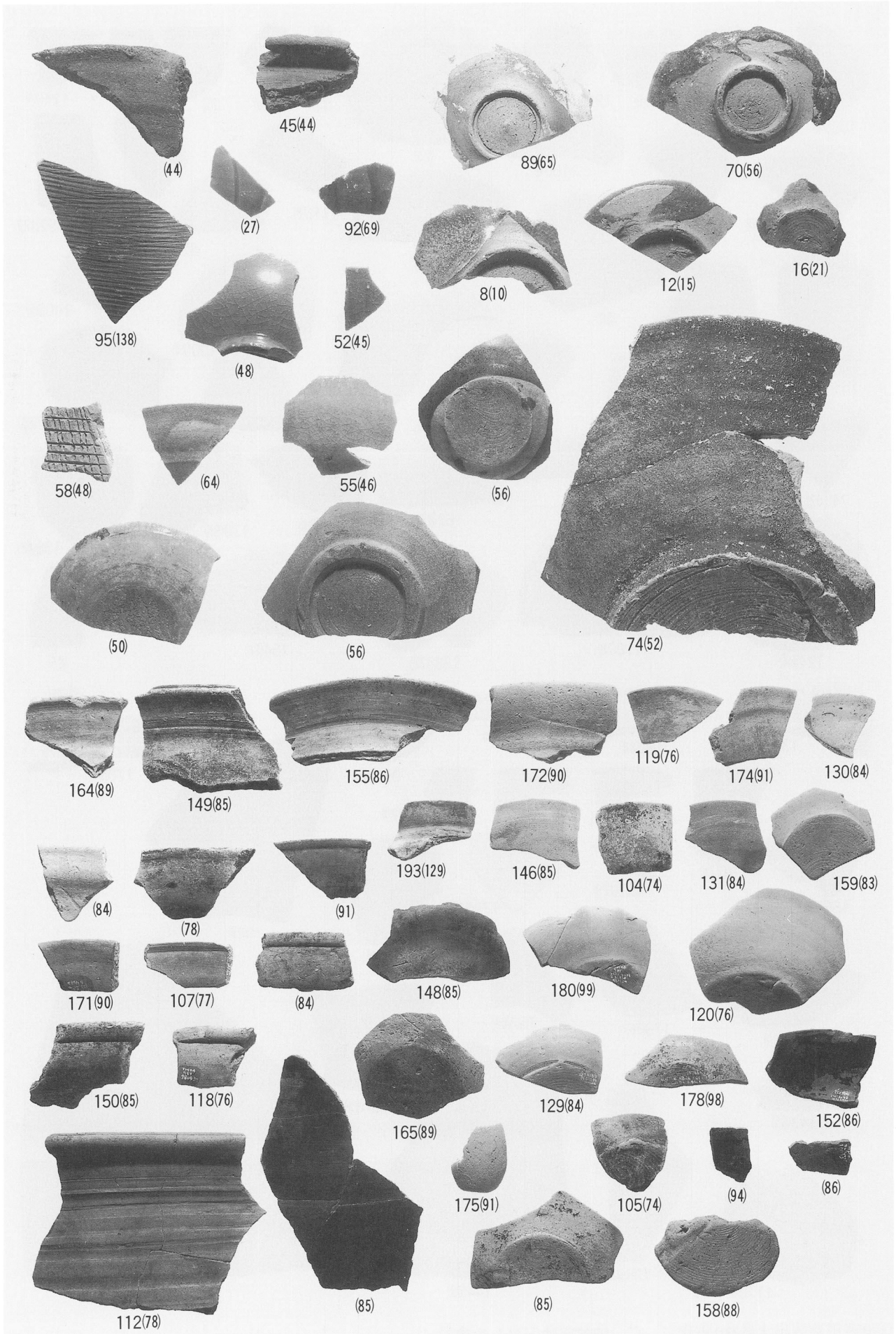
1. 100 T(東から) 2. 100 T遺構(西から)  
3. 105 T(北から) 4. 116 T(西から)  
5. 116 T土層(南から)







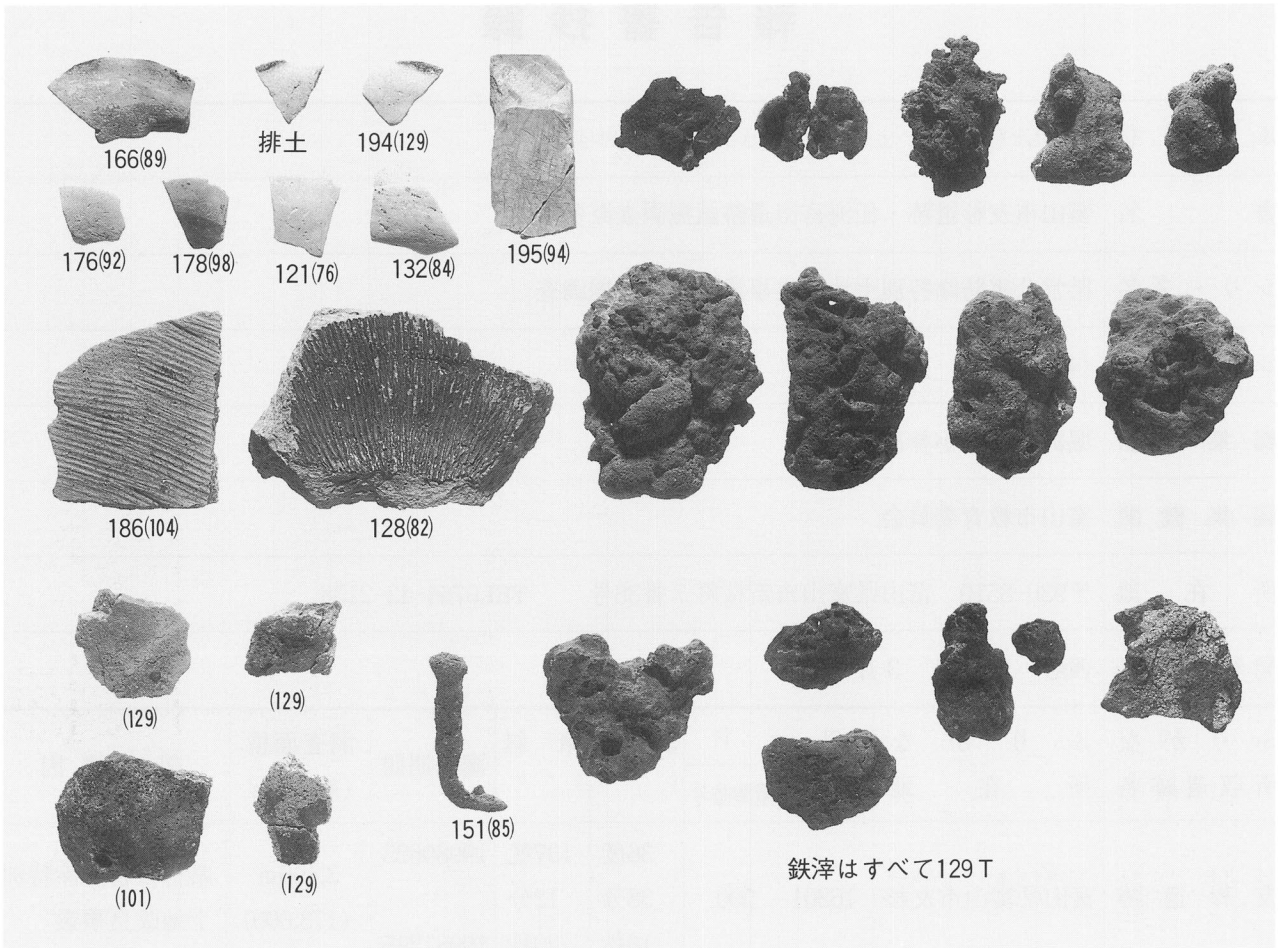
友杉遺跡出土遺物(古代・中世) ( )内数字はトレンチ番号



友杉遺跡出土遺物(中世・近世) 任海宮田遺跡出土遺物(古代) ( )内数字はトレンチ番号



任海宮田遺跡出土遺物(古代) ( )内数字はトレンチ番号



任海宮田遺跡出土遺物(中世・近世・羽口・鉄滓・鉄製品・砥石) ( )内数字はトレンチ番号

# 報告書抄録

ふりがな	とやましともすぎいせき・とうみみやたいせきしくつちようさがいよう							
書名	富山市友杉遺跡・任海宮田遺跡試掘調査概要							
シリーズ名	県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査							
シリーズ番号	(4)							
編集者名	堀沢祐一、小林高範							
編集機関	富山市教育委員会							
所在地	〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号 TEL0764-43-2138							
発行年月日	西暦 1999年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (対象) m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ともすぎいせき 友杉遺跡	とやまけん とやまし ともすぎ 富山県富山市友杉	16201	500	36度 38分 16秒	137度 12分 20秒	19980623 ) 19981225	3,496m <sup>2</sup> (173,000)	県営公害防除特別 土地改良事業
とうみみやたいせき 任海宮田遺跡	とやまけん とやまし とうみ 富山県富山市任海	16201	501	36度 37分 50秒	137度 12分 17秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
友杉遺跡	集落跡	奈良・平安 中世・近世	掘立柱建物、 井戸、溝、穴	須恵器、土師器、内黒土器、珠洲焼 中世土師器、古瀬戸、青磁、越中瀬戸焼 唐津焼、土錘、五輪塔		21,970m <sup>2</sup> に遺跡所在		
任海宮田遺跡	集落跡	奈良・平安 中世・近世	竪穴住居、 掘立柱建物 溝、穴	須恵器、土師器、内黒土器、墨書土器 珠洲焼、中世土師器、土錘、鉄製品 鉄滓、羽口、越中瀬戸焼		60,000m <sup>2</sup> に遺跡所在		

## 富山市友杉遺跡・任海宮田遺跡試掘調査概要

— 県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査(4) —

編集・発行 富山市教育委員会  
富山市新桜町7番38号  
発行日 1999年3月31日